

コース28 のりくらだけじゅうそう 乗鞍岳縦走

リーダー CL K/T SL M/K
 実施日 平成30年8月4日(土)、5日(日)
 天候 晴れ グレード B~B上
 参加者 24人(男性 4 女性20)
 コースポイント



ポイント	到着時間	出発時間	備考
4日秋葉区役所前		5:25	米山SA、姨捨SA、乗鞍高原観光センターで休憩
畳平P	11:30	12:10	Pで昼食。お花畑から富士見岳分岐への登路は通行止
富士見岳分岐	12:45	12:50	お花畑省き、鶴ヶ池廻り。左右に駒草の群生他花多し
肩ノ小屋	13:15	13:40	畳平はガスなく、山容一望。不要物を置いていく
蚕玉(こだま)岳	14:40	14:50	蚕玉までは大分ハアハアとなるが、何とか全員上れた
乗鞍岳山頂(剣ヶ峰)	15:10	15:35	全員順調に頂上を踏む。遠方は霞むが360°の大眺望
肩ノ小屋(泊)	16:30		日没、満天の星両方楽しんだ人。眠りを急いだ人色々
5日 御来迎	4:10	5:20	4:50頃からガスが晴れてきて、御来迎を堪能できた
肩ノ小屋		7:20	初め、乗鞍と雪渓を横目に花の山腹を下り、次に花と岩石の沢を下り、最後に樹林の中の大きなゴロ石の路、そしてひょっこり山荘に出る
位ヶ原山荘	10:00	10:10	
三本滝往復	10:40	11:40	三本滝バス停入り豪壮な三本の滝、カメラに納まらない
休暇村・天峰の湯	12:10	13:45	立派な施設だがほぼ貸切。お昼と泡と氷菓を楽しむ
新津駅西口	18:50		予定より40分早く全員無事帰着

山行等概要(幹事のコメント)

- 今回の山行は、昨年雨天中止のリベンジである。連日35℃前後以上の酷暑の中、3000m級の山への避暑となるかと、期待が高まる。
- 歩き始めとなる畳平は大型バスの入る観光地、ここからの往復が、当クラブで6年前に実施されていた。
- そこで、このたびは、登りは同じだが、肩ノ小屋一泊で、そこから位ヶ原まで下る縦走とし、名瀑・三本滝往復を加え、更に、2日目払暁の御来迎はA)畳平への道からと、B)乗鞍岳への中腹からの2グループに分けるなど、変化に富んだコース設定により、乗鞍岳を満喫する計画とした。



乗鞍岳山頂 3,025.6m 24名全員登頂

- ただ乗鞍の場合、いきなり車で標高約2700mの畳平へ上がるので高度障害(高山病)を一番懸念した。その対策として先ず畳平で昼食を摂ったり、お花畑で散策したりすることで高度を慣らそうと考えたが、お花畑から直接上る登路が通行止となり時間的なことを考えて省いたが、皆さん何事もなく肩ノ小屋まで行った。
- 小屋から上が距離こそ短いものの、本格的に高所への登りなので、“ゆっくり”と“休み休み”を心がけ、又皆さんからそのような注文を受けながら心がけたためか、全員が無事に標高3026mの頂上に立つことが出来、喜びと達成感もひとしおだった。
- 多くの方が乗鞍岳も山小屋泊りも初めてだったとのことで、2度目の人も、て満喫してくれたものと思います。
- 参加者から、感動した山行への感謝の便りがありました。

「暑いさなか3000m級はさすが違いますね。コマクサ、チングルマの群落。宿では冬支度で就寝。翌日はモーグルを楽しむ若者。鮮やかな車百合、背丈のあるアザミのトゲが痛かった。最後の滝圧巻でした。楽しい2日間を過ごさせて頂き、本当にありがとうございました。

昨年入笠山から眺めた乗鞍と御嶽山。
乗鞍山頂から御嶽山も見え、すごうれしかったです！」



畳平バスターミナル前



肩ノ小屋にて 夕食前のひと時



肩ノ小屋での夕食

三本滝 もう1本は向って右方。滝前の空間狭くて3本一緒に入らず

夢のような「乗鞍岳縦走」に参加して

(ライチョウにもあえました)

(1652) K/I

登山歴も体力も運動神経もなく「日本百名山」という意味も理解しないまま、友だちに「大丈夫、大丈夫」と言われて参加しました。もちろん山小屋泊も初体験となります。

バスで「畳平」へ行く途中、窓の外には、自転車に乗って山道がんばってこいでいる若者たちをたくさん見かけました。内心、私たちばかりバスに乗って楽をして悪いなあとおもいつつも、今回の登山は「もしかして大丈夫かも。」と無知と安易な思いが芽生えていました。



乗鞍岳下山途中肩ノ小屋とその周辺を俯瞰

畳平で昼食をとり今日の宿泊地の「肩ノ小屋」まで歩きます。途中の美しい高山植物たちや外国の風景かと思間違えるような広大な360度の景色をながめながら、テクテクテクテク登り坂を歩きます。足場の悪い道もがんばって歩きます。やっとのことで「肩ノ小屋」に到着した時、本当に大変な山に足を踏み入れたんだと感じました。急に大丈夫なんだろうか、周りの人たちに迷惑をかけたりしないだろうかと不安になりました。

部屋に入って安堵する間もなく疲れも取れぬまま、持ち物をまとめて集合場所へ。これから彼方にそびえ立つ「乗鞍岳山頂（剣ヶ峰）」へとむかいます。

足がガクガク、心臓はドキンドキン、不安いっぱいの出発でした。

山道は、でっかい火山礫がゴロゴロしていてどこに足を着くか迷ってしまいます。そして足を着くとそのままズルズルッとすべり落ちそうで恐怖との戦いでもあります。下ってくる人たちとすれ違いができません、互いにはじっこに寄り寄り優先させてもらったり。老若男女様々な人々との出会いがあって夢中で声かけ合いながらの登山でした。



肩ノ小屋での夕食

高度が上がるにつれて息苦しくなってきます。ゆっくりと、休み休み、一步ずつ頂上を目指します。しかし、一步一步、やっとやっと重い足を出しながら登りますが、見えている頂上には届かないのです。今にもダメになりそうな心を見無視しながらまた一步一步重たい足を出すのです。始まりがあればいつかは終わりが来ます。はるか下から仰ぎ見ていた山小屋や鳥居にとうとうとうにかたどり着きました。3000メートル以上の山の頂上です。天国に

いる気分でした。頂上の社務所で感謝の思いをこめてお参りしました。弟に初孫が生まれるので安産のお守りを買いました。

記念写真をパチパチ撮ってもらって下山します。フワフワ泳いでいるような気分で頂上から360度見渡します。百名山の一つに登れたことが信じられません。一人では絶対登れない山をこのクラブに入り多くの方々の力をたくさんいただいて登れたことを深く感謝しております。

初めての山小屋での宿泊、寒い空気の中での夕焼け、美しい星空、ふるえながら見ていたご来迎～みんな一生の宝物になりそうです。

さらにラッキーなこともありました。

翌日の朝食の後、

「ライチョウがいるぞ。」

と大きな声。びっくりしながら外へダッシュ。カメラをかまえてパチパチと登山者や宿の人が撮っているのです。なんともやの中、よくよく見ると親ライチョウの足元に小さな動く物体が……。子どものライチョウです。

私たちは何とラッキーだったでしょう。

たくさんのがんばりと幸運な出来事を土産にして帰路に着きました。

昨年は台風で中止になった「乗鞍岳縦走」でしたが今年は実施できて本当に良かったと思いました。多くの方々に大変お世話になりました。夢のような乗鞍岳登山をありがとうございました。



朝焼けの乗鞍岳



鶴ヶ池超しの豊平全景